

## 豊中ロータリークラブ最近の歩み

### 豊中ロータリークラブの生い立ち

豊中ロータリークラブは、1959(S. 34)年6月16日池田ロータリークラブをスポンサークラブとし、チャーターメンバー23名、新会員10名をもって発足した。同年6月27日に国際ロータリーの承認を受け、豊中市全域を対象に2660地区では10番目、大阪府下では13番目のクラブとして発足することになった。発足以来、熱心なロータリアンの活動により、順調な発展を続け、創立10周年時には会員数68名になり、これを記念して1969(S. 42)年6月5日に豊中南ロータリークラブを、そして創立13年目の1972(S. 47)年2月23日には豊中一大阪国際空港ロータリークラブの前身である豊中北ロータリークラブを、更に創立27年目の1986(S. 61)年2月20日には豊中千里ロータリークラブを設立し、2660地区のクラブ拡大に貢献した。短期間に3つのクラブの拡大という偉業を達成された当クラブ先輩の方々の熱意と努力に対し、あらためて敬意を表したい。

創立以来、その時代の社会の要求に答えつつ「楽しくなければクラブではない」を、モットーに充実した奉仕活動を実践し、奉仕の各分野において数々の輝かしいクラブ活動の実績をあげてきた。そして、クラブは順調に30周年を迎え、創立38年目には会員数80名を数えるまでに大きくなったが、この時をピークに会員数が減少し始め、僅か2年後の創立40周年の時には61名になっていた。1990年代のバブル経済崩壊時の長期にわたる不況や関西新空港開港に伴う大阪国際空港の規模縮小等の影響、さらには、金融関係の会員が1名残らず退会という事態に見舞われたこともあって、会員増強、退会防止の必死の努力も実らず、その後も会員は減り続け、2002年には遂に50名を割るに至った。

### 柏木尚会員 2660 地区のガバナーに就任

このような状況の中で、1999-2000年度には、柏木尚会員が2660地区のガバナーに就任した。この年度の国際ロータリー(RI)会長はイタリアのカルロ・ラビッツァ氏で、彼は、Act with Consistency Credibility Continuity(堅実、信望、持続)をテーマに掲げたうえで、この年度を「20世紀と21世紀の架け橋の年度」と位置づけ、新しい世紀に向けてロータリーとしての準備をしなければならない年度なので、「私たち自身が真のロータリアンにならねばならず、そのためには、私たちは、ロータリーの規則と信念に堅実であり、信望を勝ち取れるよう行動し、私たちの奉仕のプログラムには持続性が必要である」ことを強調している。カルロ・ラビッツァRI会長は、さらに、「現在世界の120万人の会員のうちわずか30%が熱心なロータリアンである。若し残りの70%の会員が本当に熱心なロータリアンに変わってくれば、どれだけのことを成し遂げられるか想像してみてください。おそらく21世紀の人類の未来を変えることができるのではないのでしょうか。それによって、ロータリーのためばかりではなく、よりよい未来を築くことができます」と述べている。

このカルロ・ラビッツァRI会長の言を受けて、柏木ガバナーは「私たちは、ロータリーの原点をしっかりと見つめ、21世紀のあらゆる変化と新しいニーズに、力強く且つ柔軟に対応できるロータリアンになることが大切であると思っています」と地区運営の決意を述べている。その後の日本のそして世界のロータリークラブの運営に重要な示唆を与えるものである。

### 豊中RCの国際奉仕と青少年奉仕

年々、財政的な厳しさが増す中、当クラブはその活路を求めて様々な奉仕活動をロータリー創立の原点に立って見直し、いくつかの組織改革を行うとともにクラブの自主的なプログラムを立案・実践し、成果を上げてきた。その成果のうち、特筆すべきものは国際奉仕と青少年奉仕である。これらはともに「子どもたちの未来

に光を」を主題・根本原理とするものである。

先ず、**国際奉仕**についてであるが、この取り組みの切っ掛けは、1997-1998年度の国際奉仕フォーラムでの曹洞宗国際ボランティア事務局長・秦辰也氏の講演である。秦辰也氏はタイ王国の首都バンコックのスラムの一つであるクロントイ地区の劣悪な環境から子どもたちを守ることを目的に設立されたドゥアン・プラティープ財団の設立者のプラティープ・ウンソンタム・秦様のご主人で、生き直しの学校づくりの話をお聞かせいただくこととなった。このフォーラムが縁で当クラブとプラティープ財団との交流が始まった。交流の初めにはクロント地区に中古の消防自動車を贈り、翌年から「生き直しの学校」設立への寄付に続いてスラムの子どもたちの芸術プロジェクトへの資金援助を行うなどをしてきたが、交流を始めて4年目の2000-2001年にバンコックのバンクンティアンRCと提携して、ロータリーのマッチンググラント（MG、同額援助）のシステムを活用して、家庭内暴力や親の愛情不足、スラムの社会的圧力などから生きる自信を失い、麻薬に溺れ、犯罪に走る青少年たちを再生させようというニューライフプロジェクトを実施することになった。このMGシステムは提携する先進国と発展途上国の二つのロータリークラブがそれぞれの所属する地区と国際ロータリー財団の両方から多額の資金を受けられるので、最終的には7～8倍の資金作りのできるシステムである。その後、**当クラブ**はプラティープ財団を介してタイ王国の幾つものロータリークラブと提携してMGを活用した世界社会奉仕プロジェクトを実施してきた。2007年にはネパールのヒマラヤ・パタンRCとも提携し、MGを活用してカトマンズ郊外の無医村のバランプでのコミュニティーヘルスセンターづくりを行った。これまでの実績を下表にまとめて示す。

承認年月	ロータリークラブ名	MG#	金額(\$)	内容
2002年3月	バンクチャン	MG#16278	12,000	教育設備機材
2003年2月	バンコク・ポート	MG#22531	21,000	スポーツグラウンド
2005年5月	グルアイナム・タイ	MG#53454	16,000	健康施設
2005年2月	カンチャナブリ	MG#54604	20,000	有機野菜
2006年5月	カンチャナブリ	MG#59761	24,600	給水タンク
2006年11月	タムワン	MG#61227	13,800	石灰含有地下水の浄水設備による腎臓病発生防止
2006年11月	マニカン	MG#61355	12,000	図書室改築とパソコンの設置
2007年12月	タムワン	MG#65125	19,250	石灰含有地下水の浄水設備による腎臓病発生防止
2007年12月	ヒマラヤ・パタン	MG#64461	21,500	無医村のコミュニティーヘルスセンター設置
2008年5月	マニカン	MG#66138	17,750	図書室改築とパソコンの設置
2010年6月	プラナコン	DDF	13,150	タイ王国での識字率向上プロジェクト
2012年2月	バンコクラチャダビセク	DDF	19,355	バンコク市内のラビチ病院に換気装置1台を寄贈
2014年9月	タムワン	GG1414547	37,275	タムワン地区の23小中学校への浄水設備設置
2016年3月	シーロム	GG1527745	121,143	慢性腎炎の予防知識普及と人工透析器の設置

先にも述べたように、当クラブの国際奉仕の切っ掛けはタイのプラティープ財団を通じてのクロントイ地区への消防車の寄贈である。他のロータリークラブとのMGによる高額の資金による奉仕活動を始めてからも、MGを利用しない奉仕活動も続けている。豊中市から譲っていただく放置中古自転車100台を毎年タイ国へ送り交通の不便な田舎の小学生たちに喜んで使ってもらっている。この中古自転車はフィリピンに贈ったこともある。また、フィリピン・ミンダナオ島の病院への中古救急車の贈呈やオーストラリア・タスマニア島の救急

用ヘリコプターへの資金援助などもその例である。

次に**青少年奉仕**であるが、これは**教育フォーラムと小・中・高等学校への出前授業**ならびに**大阪大学理学研究科と基礎工学研究科の外国人留学生支援事業**である。**教育フォーラム**は、主として**学校・社会教育**に関わる問題をその道の専門家とロータリークラブの会員が3時間にわたって一緒に議論する充実したフォーラムで、その成果のかなりのものはこのホームページに詳細に報告されている。

豊中RCでは、1999年2月に当時の青少年交換委員会の主催で第1回青少年交換フォーラムを開き、海外からの留学生、留学経験のある日本の青年にロータリークラブ会員が加わって、外国の若者が日本で学び、仕事をする上での問題点を話し合った。その折の話題は、日常生活における文化、習慣の違いから日本の教育問題にまで及んだ。その後このフォーラムの話題は次第に教育関係の問題が多くなり、世界の若者とロータリアンが教育問題を語り合う場となり、現在も活発に続けられており、本年2018年1月で20回目になる。その間のフォーラムの主題を年月日、会場とともに次表にまとめて示す。

年月日	会場	内容
1999. 2. 27	千里阪急ホテル	外国の若者が日本で学び、仕事をする上での問題点
2000. 2. 26	大阪エアポートホテル	外国人との壁を超えるには
2001. 2. 21	千里阪急ホテル	世界の教育、日本の教育
2002. 2. 16	ホテルアイボリー	教育における学校の役割、家族の役割
2003. 2. 22	ホテルアイボリー	日本の学力、世界の学力
2004. 2. 7	ホテルアイボリー	小・中学校の教育支援を考える
2005. 2. 26	ホテルアイボリー	これからの日本の教育について
2006. 2. 18	ホテルアイボリー	家庭、地域の教育力を考える
2007. 2. 24	ホテルアイボリー	「考える教育」を考える
2008. 2. 23	ホテルアイボリー	出前課外授業のこれまでとこれから
2009. 2. 28	ホテルアイボリー	豊中ロータリークラブの課外授業
2010. 2. 13	ホテルアイボリー	こらからの日本の教育を考えるー勉強は何のためにするのかー
2011. 1. 22	ホテルアイボリー	学校教育における双方向授業を考える
2012. 1. 21	ホテルアイボリー	職場体験学習を考える
2013. 1. 26	ホテルアイボリー	少子高齢化社会を如何に生きるか
2014. 1. 25	ホテルアイボリー	生と死を考えるー人生をいかに生きるのが良いのかー
2015. 1. 24	ホテルアイボリー	これからの日本の教育ー物事の根本原理を考える力と習慣ー
2016. 1. 21	ホテルアイボリー	学校教育における「道徳」を考える
2017. 1. 23	ホテルアイボリー	小・中学校の道徳の授業の特別の教科化を考える
2018. 1. 27	ホテルアイボリー	日本社会と道徳を考える

この間、2001年度のフォーラム終了後、議論ばかりでなくその結果を踏まえた教育関係の実践活動をしてはという声が出て、当時その必要性が叫ばれていた初等・中等教育への出前授業を、主として豊中市内の小学校、中学校を対象に、豊中市教育委員会の支援を得て始めることになった。このように、**豊中RCの出前**

授業は教育フォーラムの実績と経験の上に立って発足したもので、理論と実践が車の両輪のごとくに機能しあうロータリーの奉仕の理想に叶ったもので、青少年奉仕委員会の重要な奉仕活動の一つである。2001年以来、豊中市教育委員会を通して市内の小中学校児童・生徒を対象に、当クラブの会員の有する豊富な専門的知識を分かりやすく提供する奉仕活動として実施している。小学校高学年から中学校にかけての時期は自己形成の最も重要な段階で、会員との直接の出会いが学習と対話を通して自分の将来の進路を決めるきっかけを提供し、地域の教育力の回復にもつながるものである。なお、高等学校への出前授業は西宮市立西宮高等学校のみで、畑田耕一会員が担当している。2017年度までに訪問した学校数は、小学校193校、中学校

136校、高等学校35校で、授業を行った会員数は302名、外部からの協力者は68名である(数字は延べ数)。

この事業はロータリーの真髄である職業奉仕の理念に基づく、効果の大きい、しかも活動資金をほとんど必要としないもので、2003年には2660地区職業奉仕委員会の10カ年計画事業に採用されて他クラブでも実施されるようになり、現在も続けられている。

小学校、中学校、高等学校で出前授業をやらせていただくと、小さい子供の時には誰もが持っていた「何故?」と考える心が、学年が進むにつれて、特に中学校で薄れていくのがよく分かる。その原因の一つが受験勉強にあることはほぼ間違いない。いろいろな分野の基礎的知識を教えることを怠つては、学校教育は成り立たないが、学校での知識教育が入試突破という親や世間の要求を満たすことのみを目的として行われると、子供たちを受験勉強の世界に隔離し、小学生や中学生に対してこそ重要な根本原理の教育を忘れて、想像や

創造の世界から遠ざけてしまうことになりかねない。経済協力開発機構(OECD)の国際的な学習到達度調査(PISA)の成績が優れているフィンランドでは、教員の大部分が修士課程の修了者であるという事実を見逃してはならない。修士課程の修了者は物事の本質をより良く理解していて、根本原理の教育をより効果的に行うことが出来ると思われるからである。出前授業の奉仕を通して得たこれらの日本の教育の状況と問題点に関する認識は、豊中ロータリーの貴重な財産である。これを問題提供するかたちで社会に向けて発信し、市民とともに問題の解決に努力するのをもまたロータリアンの使命である。出前授業の新たな展開の一つにしたいと思う。なお、教育フォーラムや出前授業など教育関係の詳細な記事・報文ならびに出前授業の担当者のテーマや生徒の感想文などは、本ホームページの活動報告ならびに春夏秋冬欄に掲載されているのでお読みいただければ幸甚である。

次に外国人留学生支援事業設立の経緯について述べる。豊中RCでは、ロータリー財団国際親善奨学生、米山奨学生などの世話クラブとしての受入れのほか、毎年12月には国際交流の一環として、大阪大学理学部ならびに基礎工学部の外国人留学生懇親パーティーに参加している。平成17年12月の大阪大学大学院理学研究科外国人留学生懇親会には村司辰朗会長他7名の会員が参加したが、その懇談の場で理学研究科長小谷眞一教授より、「東南アジアの発展途上国からの私費留学生の中には奨学金が貰えず経済的に困窮している者がいる」との現状を伺い、当時の国際奉仕委員長の澤木政光会員は彼等に対する支援活動を国際奉仕の中に求められないかと

年度	小学校	中学校	高校	担当者	
				豊中RC会員	それ以外
2001	13	4	—	17	0
2002	9	5	—	13	1
2003	10	12	—	20	2
2004	16	11	—	21	6
2005	19	8	—	19	8
2006	15	7	—	19	3
2007	10	12	—	19	3
2008	8	13	—	20	1
2009	13	12	4	28	1
2010	8	10	3	20	1
2011	14	12	3	22	7
2012	18	8	2	20	8
2013	6	3	5	12	2
2014	8	5	7	16	4
2015	12	5	8	22	3
2016	7	3	2	7	5
2017	7	6	1	7	7
計	193	136	35	302	68

思案した。そこで外国人留学生の現状を広く豊中ロータリークラブ会員に知ってもらうため、平成18年2月世界理解月間に因んで、「理工系の外国人留学生の現状と問題点」のテーマで前記小谷眞一教授より卓話をいただき、それに引き続き国際奉仕フォーラムにて活発な討議が行われた。その結果、外国人私費留学生支援の気運が高まり、理事会でもこの問題が取り上げられ、澤木政光会員を委員長に「外国人留学生支援準備委員会」の設置となった。その後2回の理事会、4回の委員会での討議を経て、基金設立も承認されて財政的基盤も整った平成18年9月に澤木政光会員を委員長とする「留学生支援特別委員会」を設置し、平成18(2006)年10月に「外国人留学生支援事業」の発足となった。基金の名称は豊中ロータリークラブ留学生基金とし、2006年7月5日に奉仕活動会計より3,100,000円、2006年8月2日に一般会計より1,000,000円を振替えて発足した。奨学金は月額75000円、期間は留学生が博士号を取得するまでの最長3年間である。この事業は当初10年の時限で発足したが、クラブ会計からの振り込みが若干多かったのと地区補助金の申請が認められるようになったので、**もう少し延長できそうである。**

留学生には豊中RCの例会で年間2回以上研究の報告をすることが義務づけられているのと、出前課外授業への講師としての参加が推奨されている。最初の奨学生はボー・ホン・ハイ(ベトナム、大阪大学大学院理学研究科 2006.11～2008.3)とヴ・ズン・ヴァン(ベトナム、大阪大学大学院基礎工学研究科 2006.11～2009.9)であった。その後のクラブ支援奨学生は下表の通りである。

#### 大阪大学理学研究科

ボー・ホン・ハイ(ベトナム)	2006年11月～2008年3月	
Bao Guang-ming(中国)	2008年4月～2010年9月	
Francisco Corpuz Franco Jr. (フィリピン)	2011年10月～2013年9月	
Leila Alipour(イラン)	2012年10月～2015年9月	地区補助金(2013年10月～2014年9月、405000円)
Li Yan(中国)	2015年10月～2017年9月	地区補助金(2016年10月～2017年9月、333846円)
Wong Ting Sam(中国)	2017年10月～	地区補助金(2018年10月～2019年9月、450000円予定)

#### 大阪大学基礎工学研究科

ヴ・ズン・ヴァン(ベトナム)	2006年11月～2009年9月	
Hagharast S.M. A. (イラン)	2009年10月～2012年9月	
Dong Haisong(中国)	2013年4月～2016年3月	地区補助金(2015年10月～2016年3月、212784円)
Lai Yenting(台湾)	2016年5月～	

#### 豊中RCと米国カリフォルニア州サンマテオRCとの姉妹クラブ協定

豊中RCは1987年11月1日に米国カリフォルニア州のサンマテオRCと姉妹クラブ協定を締結した。当初は、会員の相互交流や青少年交換プログラムなどが活発に行われたが、次第に週報の交換が中心という状況になっていった。それで、交流の再活性化に向けての取り組みがサンマテオ友好委員会、国際奉仕委員会や幹事を中心に始められた。まずは会員の相互訪問から始めようというわけで、平成17年2月に当クラブ社会員が米国出張の機会に豊中RC古澤会員の紹介を受けてサンマテオRCのケニー氏を訪ね、ケニー氏のご家族も一緒に夕食を楽しんだ。ケニー氏は両クラブの青少年交換に大きな成果をあげられた方で、青少年交換の重要性で社会員と意見一致し、とりあえず会員の相互訪問から始めようということになった。その後、平成18年5月にサンマテオRC会員のジョン・バレット氏が来阪され黒河幹事、古澤理事、北村サンマテオ友好委員会委員長、辻WCS委員



長の5名で夕食を共にして、姉妹クラブ協定の更新について検討がなされた。平成19年8月には当クラブの児島会員が夫人同伴で当時スタンフォード大学に滞在中の令嬢陽子さんを伴ってサンマテオRCの例会に出席し、挨拶するとともに、古澤会長のメッセージを代読して協約再締結の必要性を訴えた。そして平成20(2008)年1月に古澤照明会長以下4名が渡米し、協約再締結調印の運びとなった。期間は引き続き向こう20年間である。この間、アメリカ在住の児島陽子さんの助力が大きかったと聞く。

### 豊中市の歴史の見直し活動

豊中RCでは、地元の豊中を対象とする活動も行っている。平成19年2月より始めた郷土の歴史の見直し活動もその一つである。遙か江戸時代以前より大坂から淀川を越えて三国、服部、岡町、豊中を経て池田から能勢へと続く道は能勢街道と呼ばれ、当時は米、炭、酒等の物資輸送の大動脈として、多田銀山へも繋がることから別名銀山街道とも呼ばれていた。今、豊中市内では僅か服部神社と岡町に“能勢街道”の文字が見られるぐらいである。そこで、当クラブは、創立50周年記念事業の一端として、能勢街道を広く市民に知ってもらおうとの思いから、豊中市仏教会の協賛を得て、豊中に道標(長壽寺前住職の渡辺宏道元会員の書)と説明碑の設置を計画し、平成21年4月14日に実現の運びとなった。

### 豊中RC創立50周年記念式典

豊中RCは、創立50周年記念式典を、平成21(2009)年6月27日、第2660地区ガバナー横山守男様、豊中市長浅利敬一郎様、ドゥアン・プラティープ財団の設立者のプラティープ。ウンソンタム・秦様らのご来賓をはじめ多くのロータリー関係者、当クラブの会員・元会員とその家族らの参加を得て、千里阪急ホテルにて盛大に開催した。横山守男ガバナーは「本年度はクラブ創立50周年記念事業の一つとして、地域社会に密着した社会奉仕プロジェクト、そしてまた国際奉仕プロジェクトを通じて、本年度のRI活動テーマに沿った『子供たちに光が当たる』子どもたちの未来が輝くまちづくり活動を展開されましたことに敬意を表したいと存じます。この上は、豊中ロータリークラブの皆様が、次の半世紀に向かってクラブの更なる継続的な発展という大きな『夢をかたちに』して頂ききます様に願っております」と豊中RCの奉仕活動の本質をよく理解したうえでロータリー奉仕の根本を明確に述べておられる。また、当クラブの姉妹クラブであるカリフォルニア州サンマテオRCの会長Shawn DeLuna氏も” The Rotary Club of San Mateo is very, very proud to be your Sister City Club and wish you all the best on this very special day. I want to renew our commitment to strengthen our Sister City Relationship. Let us together take the next 50 years of Rotary service to a higher level.”とロータリーの未来への示唆に富む挨拶を送っている。式典に次いで、ラグビーの大八木 淳史の講演を楽しんだのち、祝宴では美酒を酌み交わしつつ、ロータリーの未来について大いに論じ合った。

以上、豊中RCの創立40周年以降のクラブの歩みの中で特筆すべきと思われる点について述べた。国際奉仕と青少年奉仕の融合による奉仕活動を地域の豊中市から日本そして世界へと展開することへの使命感と責任感をお汲み取りいただければ幸である。